

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 122 『被褐懷玉』 ひかつ かいぎよく

< 意味 > うわべは粗末だが、内にはすぐれた徳を備えているたとえ。すぐれた才能を表に現さず、包み隠しているたとえ。うわべは粗末な服を着ているながら、ふところに玉を隠している意から。「褐を被<sup>かつ</sup>り玉を懷<sup>いだ</sup>く」と訓読する。「被褐懷宝（ひかつかいほう）」ともいう。

< 出典 > 「老子」七〇章

「吾言甚易知、甚易行。天下莫能知、莫能行。言有宗、事有君。夫唯無知、是以不我知。知我者希、則我者貴。是以聖人、被褐懷玉。」

読み下し： わが言は甚だ知り易く、甚だ行ない易し。天下よく知ることなく、よく行うことなし。言に宗あり、事に君あり。それただ知ることなし、ここをもってわれを知らず。われを知る者は希なれば、われに則<sup>のつと</sup>る者は貴し。ここをもって聖人は、褐を被<sup>かつ</sup>て玉を懷<sup>いだ</sup>く。

通 釈： 『わたしは、だれにでも理解でき、実行できる説しかとなえていない。にもかかわらず、理解できる者もなく、実行できる者もないのは、なぜか。

およそ、いかなる意見にせよ行為にせよ。それぞれに基本原理を持つものだ。

ところが人々には、その原理をつかもうとする意志がない。わたしの説を理解できない唯一の理由は、ここにある。

そもそも、理解する者がいないという事実が、わたしの説の貴重さを示している。

身にはボロをまとい、ふところには玉を抱く。聖人とは、そういうものである。』

語 釈： 「被」はまとう、「褐」は粗末な衣服の意。「懷」はふところにする意。

一 言： 今の世の中では、ボロを来ている人はあまり見かけませんから「身なりに無頓着な人」となるのでしょうか。悩みや惑いが多い私ですから、玉を抱いたそんな人にも是非教えを請いたいものです。

参照文献： 徳間書店「老子・列子」 岩波書店「四字熟語辞典」